

### 3 レポーターからの画像鑑定依頼

このページでは、みなさんの生き物調査の参考になるよう、令和5年度中にレポーターの方から質問（写真つき）や現物の提供があった生き物と、その鑑定結果について掲載しています。今年もたくさんのご質問をいただきました。レポーターの皆さん、ご回答いただいた検討委員の皆さん、ありがとうございました。

#### 【鳥】

<p><b>キジ</b></p> <p>ももたろうでも知られる鳥で非常に美しい緑色の体色をしています。明るい草地に生息していて、飛ぶことよりも走ることが得意な鳥です。</p>		<p><b>アカゲラ</b></p> <p>キツツキ科の鳥で、繁殖期にはくちばしで1秒間に20回も木をつつくドラミングという行動をします。</p>	
<p><b>ツグミ</b></p> <p>冬鳥で、大陸から渡ってきます。日本ではほとんど鳴かず「口をつぐむ」からツグミと名付けられたとされています。</p>		<p><b>モズ</b></p> <p>林の周りや河畔林などに生息していて、「モズのはやにえ」という捕まえた餌を木の枝などに刺し、保存食とする行動が見られます。</p>	
<p><b>トビ</b></p> <p>「ピーヒョロロ」という鳴き声をして上空を円を描きながら飛びます。飛んでいる時の尾羽が三角形に見えます。</p>		<p><b>アオサギ</b></p> <p>流れの遅い河川や湿地、水田で良く見られます。松林などに集団で集まり巣を作ります。</p>	

しょくぶつ  
【植物】

フジ

みなさんご存じのとおり、本市の花です。マメ科の植物で日本の固有種です。あしががフラワーパークでは毎年多くの観光客が訪れますね。



ヤブデマリ

5月～6月ごろに水平に伸びた枝に5枚のうち1枚だけとても小さいユニークな花びらをもつ花をつけます。



スッポンタケ(幼菌)

初夏から秋にかけて発生します。成熟するとスッポンの頭部に似た形になることからこの名前となりました。また、独特な悪臭ともいえる強い臭いを発します。



ネムノキ

似た葉にはクサネム、カワラケツメイ、オジギソウ等があります。



アオツツラフジ

ツルを伸ばしてほかの植物に巻き付きながら成長します。名前は、このツルを使った「つづら」というカゴを編んでいたことから付いたとされています。



ムラサキシキブ

6月～7月ごろに写真のような淡い紫色の花をつけ、実も熟すと紫色になります。名前の由来は花や実の色から平安時代の女性作家、紫式部に例えたとされています。



ウツギの一種

ウツギは茎が空洞になっており、「空木」と言われたことが名前の由来とされています。また、花が4月に咲くことからウノハナともいわれます。



キハギ

日当たりの良い山野に多く生え、花期は7～9月頃です。花はハギ特有の蝶形で、花びらは白と濃紫色の花を付けます。



## クマイチゴ

山間部の日当たりのよ  
り林道沿いなどで生育  
します。集合果の実を  
つけ、熟した実は食べ  
ることができます。



## ヒガンバナ

秋の彼岸頃に鮮やかな  
紅色の花が咲くことに  
由来しています。土手や  
堤防、墓地やあぜ道に並  
んで咲いているのを見る  
ことができますね。



## オモダカ(調査対象種)

田んぼや湿地などに  
生え、アギナシと非常  
に似た葉と花を付け  
ます。葉は独特な矢じ  
り形をしており、見つ  
けやすいですね。



## スベリヒユ

畑やあぜ上でよく見  
られます。乾燥に強く、  
増えやすいことから  
畑作農家からは害草と  
して知られています。



## アミガサタケ(老菌)

春頃に林内や庭園内の  
地上に生え、傘の部分  
が独特な網状になること  
が名前の由来とされてい  
ます。微量ですが毒があ  
るため注意が必要です。



## ミズオオバコ

栄養がある浅い水域に自生しますが、水田  
の環境変化や水質汚濁等により生息数が  
激減しており、日本では絶滅危惧種となっ  
ています。ビオトープなどで水域の環境が  
回復してい  
る場所では  
復活するこ  
ともあるよ  
うです。



こんちゅう  
【昆虫】

コガネムシの一種(幼虫)

写真に写っているものは15~20mmくらいで、コガネムシの仲間の中で植物の腐ったものや根を食べる種類のクロコガネの仲間と思われます。



アオスジアゲハ

大きさは32~45mmで幼虫はクスノキやタブノキを食べます。市内では多く見ることができます。



ハラビロトンボ(オス)

大きさは32~42mmでハラビロトンボは植物の多い池や沼にいますが、市内では少なくなっています。写真を撮られた地域には良好な場所があるということだと思います。全国的に減少していて、7つの都道県で絶滅危惧種となっています。



令和5(2023)年度 環境に関する大きなできごと①

◆アメリカザリガニとミシシippアカミミガメが条件付特定外来生物に指定

6月1日、環境省はアメリカザリガニとミシシippアカミミガメ(通称:ミドリガメ)を条件付特定外来生物に指定しました。

飼育はこれまでどおり可能ですが、野外へ放したり、逃がすことが法律で禁止されることになりましたので、気を付けて飼育してください。

◆ツヤハダゴマダラカミキリの被害が県内で初確認

8月29日、那須塩原市内の小学校のトチノキ1本にツヤハダゴマダラカミキリによる被害が確認されました。その後、野木町や小山市でも見つかっており、栃木県内に広く生息している可能性があります。

トチノキやカエデといった様々な広葉樹に卵を産み付け、幼虫は樹幹を食害するため、今後の動向に注意が必要です。

### ゴマダラカミキリ

おお  
大きさは20~35mmで  
ようちゆう  
幼虫はいろいろな  
こうようじゆ た  
広葉樹を食べます。  
しない ふつう み  
市内には普通に見られ  
ます。



### アカボシゴマダラ

おお  
大きさは40~53mmで  
しない ねんごろ  
市内では2012年頃か  
ら見られるようになり、  
いまでは良く見掛ける  
ようになりました。  
がいらいしゆ ようちゆう  
外来種で幼虫はエノキ  
を食えます。



### ヤマトシリアゲ(メス)

おお  
大きさは13~20mm  
しないぜんいき せいそく おお  
で市内全域に生息し多  
く見られます。オスは  
なか さき ま  
お腹の先が曲がってお  
り(把握器)、名前の  
ゆらい  
由来となっています。



### キアゲハ(幼虫)

せいちゆう おお  
成虫の大きさは36~  
70mmで幼虫はセリ・  
ニンジン・パセリなどを  
た しない やまよ  
食べます。市内では山寄  
りのあか あ ばしよ  
の明るく開けた場所に  
おお  
多くいます。



### オオカマキリ(幼虫)

がつけようじゆん  
8月上旬から  
げじゆん おや  
下旬にかけて親  
になります。  
ようちゆうきかん  
幼虫期間は3か  
げつ ほど (ちようさ  
たいしょうしゆ  
対象種)。



### フタオビキョトウ

おお  
大きさは18~25mm  
に しゆるい  
で似た種類のものがい  
るため別の種かもしれ  
ません。幼虫はヨシな  
どをた しない  
食べます。市内の  
せいそくしょうきょう ふめい  
生息状況は不明。



### クシコメツキ

おお  
大きさは14~20mm  
そうきはやし ひろ  
で雑木林などに広く  
せいそく あ  
生息します。明かりに  
も良く飛んで来ます。  
コメツキムシのなかま  
はうらがえ は  
裏返すと跳ねる  
しゅうせい  
習性があります。



### マダラスズ

おお  
大きさは6~8mmで  
かわら ひら ばしよ  
河原など開けた場所を  
この しない おお  
好み市内には多くいま  
す。チリチリチリとい  
うな ごえ な  
鳴き声で鳴きます。



### ヤマトシジミ

おお  
大きさは 9~16mm  
で、<sup>ようちゆう</sup>幼虫はカタバミ  
を<sup>た</sup>食べ、<sup>ひあ</sup>日当たりの良  
い<sup>ばしよ</sup>場所を<sup>この</sup>好みます。  
市内では<sup>しんない</sup>最も<sup>もっと</sup>多い<sup>おお</sup>チョウの  
ひとつです。



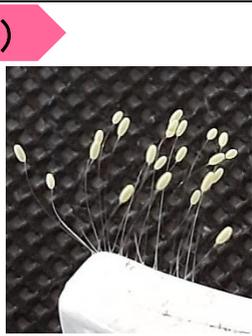
### ナミテントウ

おお  
大きさは 4.7~8.2mm で  
いろいろな<sup>もよう</sup>模様があり、ア  
ブラムシを<sup>た</sup>食べます。<sup>しんない</sup>市内  
では<sup>ひろ</sup>広い<sup>はんい</sup>範囲で<sup>おお</sup>多く<sup>み</sup>見ら  
れます。



### クサカゲロウの一種(卵)

クサカゲロウの<sup>なかま</sup>仲間の  
<sup>たまご</sup>卵で<sup>いっしゆ</sup>優曇華(うどんげ)の  
花と言<sup>は</sup>われることがあ  
り、よ<sup>おこ</sup>からぬことが起る  
い<sup>つた</sup>い伝えがありました。  
<sup>ようちゆう</sup>幼虫は<sup>た</sup>アブラムシを<sup>しんない</sup>食べ、<sup>すうしゆ</sup>市内には<sup>おほ</sup>数種  
のクサカゲロウの<sup>なかま</sup>仲間がいます。



### ショウリョウバッタ

おお  
大きさはオスが 30~  
40mm、メスが 63~  
66mm で<sup>かわら</sup>河原などの  
日<sup>ひあ</sup>当たりの<sup>よ</sup>良い<sup>ひら</sup>開けた  
<sup>ばしよ</sup>場所に<sup>す</sup>住みます。オス  
は<sup>と</sup>飛ぶ<sup>おと</sup>ときに<sup>だ</sup>チキチキと<sup>おと</sup>音を出<sup>だ</sup>すので<sup>おほ</sup>チキ  
チキ<sup>い</sup>バッタとも<sup>しんない</sup>言<sup>おほ</sup>われ  
ます。市内には<sup>おほ</sup>多く  
見<sup>み</sup>られます。



### ココマキリ(幼虫)

<sup>あし</sup>脚の<sup>もよう</sup>まだら<sup>おほ</sup>模様が  
<sup>とくちゆう</sup>特徴で、<sup>せいちゆう</sup>成虫の<sup>おほ</sup>大き  
さはオスが 36~  
55mm、メスが 46~  
63mm。<sup>しんない</sup>市内<sup>かくち</sup>各地  
で<sup>おほ</sup>多く<sup>み</sup>見<sup>み</sup>られ  
ます。



### ミイデラゴミムシ

おお  
大きさは 12~19mm。  
<sup>ようちゆう</sup>幼虫は<sup>たまご</sup>ケラの<sup>た</sup>卵を<sup>た</sup>食  
べ、<sup>せいちゆう</sup>成虫は<sup>ふんしゃ</sup>ガスを<sup>し</sup>噴射  
する<sup>とくい</sup>という<sup>しゅうせい</sup>特異な<sup>し</sup>習性  
が<sup>しんない</sup>知られて<sup>おほ</sup>います。  
市内では<sup>おほ</sup>ケラが<sup>おほ</sup>い  
なくな<sup>おほ</sup>っていること  
から<sup>おほ</sup>見<sup>み</sup>られる  
のは<sup>まれ</sup>稀です。



### シロスジカミキリ

おお  
大きさは 40~55mm  
で<sup>そうきはやし</sup>雑木林に<sup>せいそく</sup>生息  
して<sup>あ</sup>いて、<sup>き</sup>明かり  
にも<sup>おほ</sup>来<sup>おほ</sup>ます。  
<sup>にほん</sup>日本では<sup>さいだいきゆう</sup>最大級  
の<sup>おほ</sup>カミ  
キリ<sup>ほんし</sup>ムシですが、<sup>おほ</sup>本市  
で<sup>おほ</sup>は<sup>すく</sup>少  
なくな<sup>おほ</sup>って  
しま<sup>おほ</sup>い  
ました。



### ウラナシジミ(メス)

おお  
大きさは 4.7~8.2mm  
で<sup>ほっぽう</sup>北方へ<sup>いどうかくさん</sup>移動  
拡散<sup>せいしつ</sup>する  
性質<sup>しんない</sup>があり、<sup>あき</sup>市内  
では<sup>おほ</sup>秋  
に<sup>おほ</sup>多く  
見<sup>み</sup>られ  
ますが、<sup>さむ</sup>寒  
くて<sup>ふゆ</sup>冬  
を<sup>おほ</sup>越  
すこと  
が<sup>おほ</sup>でき  
ませ  
ん。<sup>ようちゆう</sup>幼虫は<sup>まめ</sup>豆の  
<sup>なかま</sup>仲間  
を<sup>た</sup>食<sup>せいちゆう</sup>べて  
成<sup>おほ</sup>長  
しま  
す。



## ヒメウラナミジャノメ

おお  
大きさは 18~24mm  
で、本市では最も多い  
チョウのひとつです。  
あか ひら ばしよ おお  
明るく開けた場所に多  
くいます。幼虫はイネ  
やカヤツリグサの仲間  
を食べます。



## ミヤマアカネ

おお  
大きさは 30~40mm で、本市ではかなり  
すく 少ないトンボです。全国的に減少してお  
り、17都府県で絶滅危惧種となっていま  
す。

▼メス



▼オス



## 令和5(2023)年度 環境に関する大きなできごと②

かんきょう  
環境アプリケーション「あしかがエコ」が  
はいしんかいし  
配信開始

れいわ ねん がつ にち  
令和6年2月20日、スマートフォン向け環境  
アプリケーション「あしかがエコ」の配信を  
かいし  
開始しました。CO2排出削減のために身近  
なところから環境にやさしい取り組みを  
じっせん きろく  
実践・記録し、2050年ゼロカーボン社会の  
じつげん めざ  
実現を自指しましょう！



はいしよくゆ かいしゆう  
廃食油の回収とリサイクルについて民間  
きぎょう れんけいきょうてい ていけつ  
企業との連携協定を締結

れいわ ねん がつ にち  
令和6年2月26日、廃食油の回収とリサ  
イクルについて ENEOS (株) 及び (株) 吉  
川油脂と連携協定を締結しました。

ごみの減量、CO2 排出量削減につながる  
取り組みです。ご家庭から出る廃食油を、  
ぜひ市内スーパー等の回収拠点へお持ちくだ  
さい！

Android  
スマートフォン用



iPhone 用



詳しくはこちらから→



### サトクダマキモドキ

おお  
大きさは 18~24mm  
で、<sup>ひとごと</sup>人里に多く見られ  
ます。市内では少なく  
ないですが、<sup>き</sup>樹の上で生活するため気が付  
かないと思います。明かりにも来ます。本市  
には<sup>さんかんぶ</sup>山間部によく似たヤマクダマキモドキ  
がいます。



### ウスバカゲロウ

おお  
大きさは 36~41mm  
で、<sup>ようちゆう</sup>幼虫はアリジゴ  
ク。<sup>のきした</sup>軒下など<sup>あめ</sup>雨のあた  
らない<sup>かわ</sup>乾いた場所に多  
くいます。<sup>はかげ</sup>葉陰などの  
ちょっとしたところにも  
アリジゴクがあります。



### ルリタテハ(幼虫)

せいちゆう おお  
成虫の大きさは 25  
~44mm で<sup>ようちゆう</sup>幼虫はユ  
リ類・サルトリイバラ  
などを<sup>た</sup>食べます。本市  
には<sup>ふつう</sup>普通にいて、  
<sup>せいちゆう</sup>成虫で<sup>ふゆ</sup>冬を<sup>こ</sup>越します。



### ホタルガ

おお  
大きさは 24~34mm  
で 4月から見られ、  
<sup>ひるま</sup>昼間に<sup>かつどう</sup>活動する蛾で  
す。<sup>ようちゆう</sup>幼虫はヒサカキな  
どを<sup>た</sup>食べます。本市で  
は<sup>ふつう</sup>普通に見られます。



### カネタタキ

おお  
大きさは 7~11mm  
で、「<sup>ちん</sup>チン・<sup>ちん</sup>チン」と小  
さな音で鳴きます。本  
市では<sup>じんか</sup>人家の<sup>まわ</sup>廻りなど  
にも<sup>ふつう</sup>普通にいますが、<sup>み</sup>なかなか見かけられ  
ない<sup>こんちゆう</sup>昆虫です。



### アジアイトトンボ

おお  
大きさは 24~34mm  
で 4月から見られま  
す。当市では<sup>もっと</sup>最も多  
いトンボです。



### ツマグロヒョウモン(メス)

おお  
大きさは 27~38mm  
で、オスには<sup>まえはね</sup>前翅の黒  
い部分がありません。  
パンジーなど<sup>すみれ</sup>スミレ  
の<sup>なかま</sup>仲間を<sup>た</sup>食べます。  
<sup>だんちせい</sup>暖地性のチョウで、<sup>おんだんか</sup>温暖化に伴い<sup>ともな</sup>本市では  
2006年頃から見られるようになり、<sup>いま</sup>今で  
は<sup>かくち</sup>各地で多く見られます。



### セスジズメ(幼虫)

ようちゆう  
幼虫はヤブガラシ・ノ  
ブドウ・サツマイモな  
どを<sup>た</sup>食べます。市内に  
多くいます。地面を這  
っているのを<sup>み</sup>見かける  
ことも<sup>おお</sup>多いです。



### ヒメクロホウジャク

おお  
大きさは 21~22mm  
ひるまかつどう が  
で、昼間活動する蛾で  
す。ホバーリングしな  
がら ぎゅうみつ  
から吸蜜するホウジ  
ャクの仲間です。秋に  
み  
見られます。本市の  
かうち ふつう み  
各地で普通に見られます。写真からこの種  
と鑑定しましたが、よく似た別の種である  
かのうせい  
可能性もあります。



### フクラスズメ(幼虫)

しゃしん わか  
写真のものは若い  
ようちゅう  
幼虫でフクラスズメ  
の幼虫ではないかと  
おも  
思われます。幼虫はイラクサ・カラムシな  
どを食べ、本市では河原などの明るく開け  
た場所に生息し、非常に数が多いこと  
があります。幼虫は危険を感じると頭部を  
そ みどりいろ えきたい は だ  
反らせ、緑色の液体を吐き出しながら頭部  
を激しく横に振ります。成虫で冬を越しま  
す。



### キボシカミキリ

おお  
大きさは 15~30mm  
で、幼虫はクワイチ  
ジクなどを加害しま  
す。本市では普通にい  
るカミキリムシです。



### キロスズメ(幼虫)

ようちゅう た  
幼虫はヤマイモを食べ、  
せいちゅう おお  
成虫の大きさは 40~  
53mmになります。本市で  
の生息状況は不明です。



### ウラギンシジミ(オス)

おお  
大きさは 19~27mm で、  
せいちゅう ふゆ こ  
成虫で冬を越します。翅  
の裏側が銀色をしており、  
うらがわ ぎんいろ  
一目で本種と区別できま  
す。市内に広く生息しています。幼虫はマ  
メ科のクズやフジの花や蕾を食べるとい  
われています。



### ヒメアカタテハ

おお  
大きさは 25~33mm  
で本市では最も多い  
チョウです。移動能力  
の高いチョウとして良  
く知られています。よく似たアカタテハよ  
りは多いようです。幼虫はキク科のヨモギ  
やハハコグサなどを食べることで知られて  
います。温暖化による北上昆虫のひとつ。



### オオアイトトンボ(メス)

大きさは 34～48mm で出現期が長く、成虫は晩秋まで見られます。本市ではそれほど多くない



ようで、どこでも見られるというトンボではないようです。

### ヒゲコメツキ(オス)

大きさは 19～30mm で雑木林の葉上などにいて、明かりにも良く飛んできます。市内では普通に見られますが、初めて見た人は特徴ある櫛のようなオスの触覚に驚くと思います。



## 【水辺の生き物】

### クサガメ

最大30cmにもなると言われるカメです。オスよりもメスの方が大きくなります。甲羅に3本の筋状の突起が特徴です。



### ヌマガエルまたはツチガエル

お腹側の模様で判別ができます。場合によってはそもそも区別がつかない可能性もあります。



### ウシガエル

水草の生える流れの緩やかな水辺に生息します。警戒心が強く、暗いところに隠れます。「プオー、プオー」という牛に似た鳴き声をしています。



### アマガエル

水辺の植物の上や森林などに生息します。鳴くのはオスのみで、鳴のうという袋を膨らませて鳴きます。



## スジエビ

前足の部分で判別できます。体の模様と形からスジエビと思われる。



## マシジミ

台湾マシジミ等と交雑している可能性があります。判別するためには遺伝子レベルで調べないと断定できません。



## アメリカザリガニ

体色は赤色と茶褐色とその混合で、水田や池など水深が浅く流れの緩い場所に生息します。令和5年6月1日より、条件付特定外来生物に指定されました。



## カワニナ（幼虫）とトビケラ（幼虫）

それぞれを詳しく判別するには石粒の殻から本体を取り出さないと判別することができません。



## 【その他】

### ギンメッキゴミグモ

大きさは3～7mmで本市における生息状況は不明です。インターネット等によれば林の周辺や公園、庭先などで見かけるありふれた種のことです。



### ナガコガネグモ

大きさはオスが6～12mm、メスが20～25mmで本市には広範囲に多く生息しています。8月～10月の明るい草地や水田付近にも多く見られます。刺激を受けると巣を強く揺さぶります。



### ドヨウオニグモ

大きさは4～10mmでメスのほうが大きくなります。本市では河原や田んぼなどに普通にみられ、初夏と秋の土用の時期に多く発生することからこの名前がつけられたとされています。



### ザトウムシの一種

この仲間は市内山間部で良く見ることができます。脚が非常に長く、地面を歩いて小さな虫やその死骸を食べます。

